



復興街路名稱の懸賞募集に際して

秋田縣知事 菊池 慎三

道路の名前殊に街路に名前を付けることに關しては、私は曾て本誌上に道路街路の名稱と題し更に之に對する批難に對する批難の論議を試みたことがある。(大正十三年)此の論文は何れも私の著書都市計畫と道路行政中に入れて居るのであるが、美濃部博士は、街路名の選定の必要など何人も異

論なかるべき事と存候と御手紙の中に裏書をして居られる。所が私の主張に多數の有力なる共鳴者がありながら、之を實行するの機運が未だ熟しなかつた。私は道路行政が私の主管であつた間に私の主管する道路臺帳の上の一切の名稱を書き替へしめることも考へないではなかつた。愚劣なる行政の行き方を一新するに當り、相當の力強い改善を加へることを躊躇するのではない。併し私は私獨りの發意に基づく狭い範圍の改善を爲すことを急ぐよりも、一層機運の成熟に盡すべきであらうと思ひ、其の外他に着手した仕事の爲に、道路名稱問題は直接解決するに至らなかつた。所が復興街路に命名すること、其の名稱を一般から懸賞を以て募集するの議が日日新聞と復興局其の他の間に進んで居り、私も亦其の事に參加するに至つて、私の主張の幾分が實現せられる機運となつたことを大に喜びとする。此の懸賞募集の如きは道路街路の命名に關する一着手たるに止まる、私は將來更に一層組織的に道路街路命名行政を改善徹底せしめる必要を認める。

二

土地の名前と云ふことは非常に重要な事である。生を享けて人生の貴重なる時間を過した所の土地の記憶は、土地の名前と結び着けられて記憶に残る土地を愛する記憶感情の尊重すべき所以は、淺眼者短見者の看過する所であらうが、深く人性に注意し熟々と思想の趨向を達觀するの人は、愛郷心愛市町村心を涵養する所以の本義を忘るゝを得ないであらう。私は我が地方行政に於て土地に關する命名の行政に注意すること十分ならざること甚しき缺陷なりと考へる。愛する者の名は

親しみ易い近づき易い忘れ難いものたるを要する。爾汝相呼ぶと云ひ親昵愛慕の情緒は名前に依つて大に育成せられ保存せられる。法律上の名稱公式の名稱が如何にも形式的で親しみ難いことは私の満足し得ざる所である。地方民政の當路者として深く精神的教化善導の任務の重要なことを感ずる者は、土地の名稱に關して十分なる考究を加へ之に關する明確なる行政の態度と方針とを樹立すべきであると思ふ。私の謂ふ土地の名稱には、公共團體の名稱から大字名、小字名、町名、道路名、街路名、坂崖、河川、溝渠、其の他の名稱をも包含する。

三

都市を構成する各町と又は各建物乃至各建物敷地に簡明なる表示名稱及番號を附することは、複雑なる都市構成各分子の索引を作る様なものである。我國の書物には索引のないものが多い、目次の詳細ならざるものが多いことは、讀書研究の上に多大の不便を來すと云はれるが、都市の構成に付ての索引も亦甚だ不完全である。各般の行政施設も漸次整備せられるが、都市の町名、町界地番の整備は尙頗る不十分である。所が帝都復興事業としての土地區劃整理施行の結果、町界町名地番を整理改正して市民の利便を圖らんとして居る。更に東京隣接郊外町村に於ても名狀すべからざる混亂不明の爲に、都市生活の能率を阻害し經濟生活日常生活に甚大なる不便不利を與へる事實に目覺めて來て、逐次字名字界地番の改善整理に盡さんとして居る。都市生活の整備の爲に次第に此の方面の行政の進捗を見ることは、大に私の喜びとする所で、其の完成は尙多くの歲月を必要とするであら

う。唯私は都市の土地の名稱番號の必要なること、其の原則の簡明なること、都市生活の利便の爲に必要なること、同一の趣旨が、町名地番に支配せられない所の公共用地就中道路街路にも必要であることを指摘したのである。都市を構成する要素として街路の重要なことは言を俟たない。都會人は街路の上に過す時間が如何に多いかを思へ。都會生活と街路とは切り離すことを得ない。街路其のものゝ外形環境構造等が都會人近代人に痛切なる影響を及ぼすので都市問題都市行政の重要な項目を成すのであるが、同様に街路そのものゝ名稱沿革といふことは都市生活上重要な關係を持つ。世界の主要都市を代表し特徴づけるものは其の主要街路である。都市の代表的街路には近代人の經濟活動文化行動享樂行爲の場所として街路の名稱は詩歌俗諺の題材となるので名稱の如何その事も街路の價値を左右すること多大である。街路の行政を任務とする者は、區々の形式行政區々の法律雜務に支配せられて街路の廣汎なる機能を忘れてはならない。橋梁には名稱を附する如何に短小なる橋梁迄も一々命名してある。水路にも名稱がある。公園にも名稱がある。街路に付てのみ其の命名の事と名稱其のものに無關心なるが如き路政當局者は、私の見るところを以てすれば其の任務を辱しめる者と謂はなければならぬ。路政の進むべき一方向は街路名稱にありと信ずる。

四

大正元年九月十九日の東京日日新聞紙上には、乃木大將の葬式のことゝ同時に、大將邸の横にある

「幽靈坂が乃木坂」と改稱されることに、赤坂區會で決議され寫眞版にも乃木坂と書いた棒杭が載せられた。(小野賢一郎氏、明治大正昭和一五六頁、麴町の東郷坂にも多分同様な由緒があるであらう。返子の東郷大將の別荘に近い橋には東郷橋と名づけてある。返子町誌に依れば返子海岸は返子停車場より西に八町、左鳴鶴崎、右大崎の間に成れる海岸にして海水浴場として天下に名あり。濱を新海岸と稱したりしに日露戰爭直後東郷元帥の來返せられし時、元帥の別荘は海岸近くに在り。) 町民歡喜してを濱に元帥を迎へて衷心より奉祝したり。仍て此濱を東郷濱と稱し、其の通過されし川間橋を東郷橋と改稱せり。歐米の大都市の街路には偉人學者文人等の名稱を附するの例は頗る多い。大正十四年三月六日東京日日新聞に依れば三月四日ドイツ大統領エーベルトの葬儀に際しベルリン市廳はベルリンの主要な街路の一に故大統領エーベルトの名を命名することに決したと言ふ。路政の當局者が此等の都會人自然の自發的の先賢追慕の衝動を利導することを忘れることは甚だ其の當を得ない。